

【近畿農政局長賞：単位収量の部】

やまだ なな
山田 奈々(滋賀県東近江市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約1.6ha	784kg/10a	262kg/10a(537kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族4人(本人、夫、両親)で経営する兼業農家。
- 水稻専作で、経営面積約4.3ha

【作付品目】

- ・主食用米:夢ごこち、きぬむすめ、
しがはぶたえもち 滋賀羽二重糯 約2.5ha
- ・飼料用米:北陸193号 約1.6ha

【取組のきっかけ】

- 小規模集落で離農者が増える中、不作付地の解消と収益増加のため、借地を含む農地において、平成26年産から主食用品種「日本晴」で飼料用米生産に取り組む。
- 平成27年産から、出荷先の商系事業者(米・資材卸)の薦めもあり、倒伏に強く、多収である「北陸193号」の生産に取り組んでいる。

【取組概要】

- 「北陸193号」は主食用より早く定植し、主食用より遅く収穫することで、品種特性を踏まえた十分な生育期間を確保し未熟粒を減らして単収を増加させている。
- 良質な土づくりのため、水稻収穫後1週間以内にもみがらを散布し、わらと併せてすき込むとともに、12月末までに再度のすき込みを行っている。
- 施肥は、元肥として窒素分30%の緩効性肥料を田植と同時(5月3～5日)に施用(30kg/10a)し、幼穂形成期の少し前(7月13～16日)に追肥することで株の根張りを向上させている。追肥は、過去の施肥量と収穫量を分析するなどし、ほ場に応じて安価な単肥(尿素)を施用するなど、コスト低減に取り組んでいる。
- このほか省力化の取組として、簡易水槽でプールによる育苗や苗数を減らすため疎植にするとともに、防除は育苗箱施用と除草剤の田植7日後散布の2回に削減している。
- 6月中旬に確実に水切り作業を行い、最高分げつ期の直前に十分な落水を行うことにより、倒伏防止と根の活性化を促進している。
- 地域の気象・土壌条件に即した生産技術の確立により、毎年高い単位収量を確保している。



【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】ユキオズファーム（滋賀県大津市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
みなちから	約3.1ha	647kg/10a	162kg/10a(499kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】 ○ 本人、従業員2名、アルバイト2名で経営する専業農家。 ○ 経営面積は36ha。飼料用米、主食用米、麦、大豆、子実用とうもろこしを栽培	【作付品目】 ・主食用米：コシヒカリ、ミルキークイーン、キヌヒカリ、きぬむすめ、ほか 約19.0ha ・飼料用米：みなちから 約3.1ha ・麦・大豆・子実用とうもろこし 約13.9ha
--	---

【取組のきっかけ】 ○ 地域の養鶏農家が国産の飼料利用を進める中で、平成19年から飼料用米「日本晴」の作付けを開始。その後、「モミロマン」「吟おうみ」「北陸193号」を作付けし、令和4年産から「みなちから」を作付けしている。 ○ 当該地域は砂壤土で単収が低いことから、地域で初めて多収品種で病害虫に強い「みなちから」を作付けている。

【取組概要】 ○ 単収向上に向けて、JAと連携して施肥設計を見直すとともに、ほ場条件に合わせた鶏糞の活用や普及センターともタイアップしながら肥料が切れないように肥培管理を行っている。 ○ 生産コスト低減のため、ほ場ごとに施肥体系を分け、側条施肥田植えによる元肥の一発施用や大型ドローンを用いた化成肥料の追肥(穂肥1回)をJAへ委託するとともに、自ら所有しているドローンを活用し除草剤の散布を行っている。 ○ さらに省力化のため、防除は、原則、田植え時に除草剤を同時散布(1回)し、立毛乾燥をするとともに、収穫・乾燥調製作業は、主食用米と作期を分散している。 ○ 生産した飼料用米は、「50グラム会」(滋賀4軒、三重1軒の養鶏グループ)へ出荷し、養鶏農家から無償で提供された鶏糞をほ場へ還元するなど、耕畜連携の取組を行っている。 ○ 早くから飼料用米の生産に取り組み、近隣の担い手農家と多収に向けた技術の情報交換を行うなど地域の模範となっている。
--

